



## 会設立からの歩み

### 12 樹木名札の取り付け (2回目)

9月6日(9:00~12:00)、「風の松原で見られる樹木の名前を知りたい」という市民の要望に応える一つとして、8月19日に引き続き、2回目の樹木の名札の取り付けを実施した。

憩いの広場周辺、トリムランニングコース沿いなどに生育する25種の樹木名を秋田杉板に書き込んで1種2カ所ずつ50枚を取り付けた。

### 13 市民活動の歩みを

#### 語る会を開催

10月10日(13:30~16:00)、中央公民館第5研修室、参加者28名で開催した。昭和46年に結成された「砂防林を愛する会」の活動について山木吉長氏の発表があり、臨海工業団地の造成に伴う砂防林の伐採に反対する立場で活動した歩みを語られた。昭和62年に「風の松原」の愛称が決まり、平成2年には新しく「風の松原を育てる市民の会」が結成され、活動したことについて佐藤浩嗣氏からの発表があった。

### 14 樹木名札の取り付け

10月16日(9:00~12:00)、今年度第3回目の樹木の名札取り付けを行った。これで合計32種64枚にな

り、名札を見て風の松原の植生を知り、散策の楽しみになればと考えている。



「エゾエノキ」と「ヤマグワ」の名札

### 15 森林ボランティア

10月19日(9:30~15:00)、山本総合農林事務所主催、会員30名参加で実施された。

初めに若美町の松くい虫被害地を視察し、被害の悲惨さに驚く。八竜町の重点防除帯では松くい虫の穴や幼虫のはいまわった跡などを観察し、松くい虫灌水防除試験地では実際に水をかけてみた。昼食後は昨年にも引き続き、県有林で除伐と枝打ちに心地よい汗を流した。

### 16 巣箱の組み立てと取り付け

10月26日、6名参加、3日かかって組み立てたシジュウカラの巣箱を設営した。巣箱は24個製作し、とりあえず18



個だけ取り付けました。シジュウカラの餌盗りカラはテリトリー(縄張り)を持つので、樹木の込み具合を見ながら巣箱の間隔を80mほど離した。



## 17 松原のクリーンアップ



戦時中の松の根掘り穴を清掃

11月6日、  
(9:30~12:00)  
会員20名、米  
代西部森林管  
所長と職員1

名、県環境整備課ふるさと美化推進チーム職員4名の参加で実施した。初め2班に分かれて松くい虫パトロールと松原内のごみ拾いを行った。小雨の中で被害木を確認し、捨てられていた空き缶・ペットボトル・ビンなどを袋に分類して拾い集めた

2班の合流後は、サンウッド能代向かいに散在する戦時中に松根油採取をした根掘り穴の学習とクリーンアップを行った。戦争の史跡として保存しようという要望もあり、説明看板の必要性を訴える声があがった。

## 18 古きを訪ねて



市内探訪後の山木講師を囲む懇親会

11月20  
日、参加者  
13名、講師  
に山木吉長  
氏を招いて

実施した。能代市街地にかつて存在した松林の跡やそれにかかわる史跡の現地研修をした。中央公民館を徒歩で出発し、追分町・若松町・東町・元町・畠町を一巡し、かつて松林であった場所を確認した。

後半は自家用車で西通町・能代町・浜通町を通り、下浜までの史跡を探訪した。

終了後に懇親会を催したが、会員からは「先人が苦勞して植林した昔の松原と現代の能代市街を重ねた地図があれば分かりやすい」という意見があった。

## 19 アカゲラのねぐら箱を設置

12月18日

能代市農林水  
産課の呼びか  
けで、マツノマ



ダラカミキリの 技術開発センターでのねぐら箱製作

天敵であるアカゲラのねぐら箱製作と取り付けが行われた。午前の箱製作には10名参加し、能代市技術開発センターで100個の箱を完成させた。

午後からは取り付けに5名参加で、風の松原内のクロマツに取り付けた。後は、アカゲラがねぐらとして利用してくれるのを願うだけである。

## ◎ 商工会議所から

### 30万円贈与される

10月10日、商工会議所からの30万円の贈与を受けた。使途に制限条件はないが、風の松原のために役立てることがねらいである。看板・パトロール腕章・作業用帽子・ユニホーム・情報活動費などいろいろな意見がある。使途は役員会で相談し、総会に提案されて決定することになる。